

# 薫風

第 111 号

2026年3月1日

発行 北海道八雲高等学校  
父母と教師の会  
編集 父母と教師の会広報部



## 新たな道へ



父母と教師の会

会長 小熊 裕樹

三年生のみなさん、ご卒業おめでとうございます。また、今日までお子様を慈しみ、支えてこられた保護者の皆様、お子様のご卒業を心よりお祝い申し上げます。

思い返せば三年前、大きな制服に身を包み、期待と不安を胸に校門をくぐった皆さんの姿が昨日のこのように思い出されます。高校生活の三年間は、人生の中でもっとも変化に富み、輝かしい時間だったのではないのでしょうか。日々の授業や部活動、仲間と切磋琢磨した行事の数々。時には壁にぶつかり、悩み、涙したこともあったでしょう。しかし、その一つひとつの経験が今の皆さんの確かな糧となり、力強い足取りとなっており、今日のこの日を迎えています。

これから皆さんが歩む道は、決して平坦なことばかりではないかもしれません。社会の大きな変化の中で、正解のない問いに立ち向かう場面も増えるでしょう。そんな時は、この学び舎で得た知識や経験、そして共に過ごした仲間の存在を思い出してください。自分を信じ、周囲への感謝を忘れずに一歩ずつ進んでいけば、必ず道は開けます。皆さんの前には、無限の可能性が広がっています。

最後になりますが、これまで熱心にご指導いただいた校長先生をはじめ諸先生方、そして学校運営にご協力いただいた全ての皆様に、厚く御礼申し上げます。

伝統ある八雲高等学校の卒業生として、自信と誇りを持ち、希望を胸にこれからの新たな道を歩んでいくください。皆さんのご活躍をお祈りしています。

柔軟に生きる



校長 山 健一

今日、晴れて本校を卒業する皆さん、そしてこれまで成長を支えてこられた保護者の皆さまに、心よりお祝い申し上げます。また、長きにわたり本校の教育活動にご理解とご協力を賜りましたことを厚くお礼申し上げます。

さて、この三年間は、勉強や部活動、日常の友人関係などから、多くの経験と学びを積み重ねてきた時間だったことでしょう。その一つひとつが、これからの人生の土台となっていきます。皆さんがこれから歩んでいく社会は、これまで以上に変化のスピードが速い時代です。技術の進歩により、私たちの生活や働き方は大きく変わり続けています。数年前には当たり前だった仕事や姿を消し、新しい職業が次々と生まれています。また、価値観や生き方も多様化し、「こうでなければならぬ」という正解は、もはや一つではありません。このような時代において大切なのは、変化を恐れるのではなく、変化と共に生きていく柔軟さを身につけることです。

柔軟に生きるとは、自分の考えを簡単に手放すことではありません。自分なりの目標や大切にしたい価値観を持ちながらも、状況に応じて考え方や進み方を調

整できる力のことです。思い描いていた進路が途中で変わることもあるでしょう。努力しても思うような結果が得られず、立ち止まることもあるかもしれません。しかし、その経験は決して失敗ではなく、視野を広げ、新たな可能性に気づくための貴重な学びです。

卒業生の皆さんには、ぜひ「学び続ける姿勢」を大切にしてほしいと思います。学校を卒業しても、学びは終わりません。新しい知識や考え方に触れ、自分を更新し続けることが、変化の激しい時代を生き抜く力となります。挑戦する中で迷いや不安を感じることがあっても、自分なりに考え、行動した経験は、必ず将来の自信につながります。

保護者の皆さまにとっては、お子さまの選ぶ道が見えにくく、不安を感じることが多いかもしれません。しかし、変化の時代だからこそ、子どもたちが自分で考え、試行錯誤する過程を信じ、温かく見守ってあげてください。その支えが、子どもたちに挑戦する勇気を与えます。

卒業は一つの区切りであると同時に、新しいスタートです。変化を前向きに受け止め、柔軟な心で歩み続けることができれば、どのような時代においても、自分らしい人生を切り拓いていくことができるでしょう。私たち教職員一同は、皆さん一人ひとりの未来が、可能性に満ちたものとなることを心から願っています。



登校指導

生活部長 影 浦 弥 生

この一年、PTA活動として登下校時の見守り活動に参加しました。高校生になると行動範囲も広がり、自分で判断し行動する場面が増えていきます。その一方で、通学路には交通量の多い場所が多く、危険が潜んでいることも少なくありません。見守り活動は、直接声をかけることはほとんどありませんが、日常の中にさりげなく大人の目があることで、生徒が安心して通学できる環境づくりに繋がっていると感じました。挨拶を交わす場面は多くはありませんでしたが、静かに会釈をしてくれる姿や、落ち着いて登下校する様子に、高校生としての成長を感じることもありました。目立たない活動ではありますが、生徒一人ひとりの安全を支える大切な役割であることを改めて実感しています。今後も、学校家庭・地域がそれぞれの立場で協力し、生徒が安心して学校生活を送れる環境を守っていければと思います。一年間、ご理解とご協力をいただき、ありがとうございます。



PTA 活動 報告

蕎麦打ち体験研修

研修部長 藤 田 真 也

十一月三十日(日)九時三十分より、商工会はびあ八雲において蕎麦打ち体験研修を実施しました。参加者は保護者八名、教職員四名で、講師として八雲そば研究会の皆様をお迎えしました。

当日は蕎麦打ちの実演および体験、試食を行いました。菊練りや麵棒で生地を均一に伸ばす工程は想像以上に難しく、参加者からは苦戦しながらも楽しむ声が聞かれました。試食では蕎麦の豊かな香りが際立ち、かえしも上品でとても美味しいと好評でした。

和やかな雰囲気の中、先生方との交流や保護者同士のつながりも深まり、今後より多くの保護者が参加できる事業を構築していければと感じました。



『経験値が増えた海外短期研修』

2年A組 菊地 亜実

私の将来の夢へ一歩でも近づくために挑戦した今回の海外短期研修で、私は自分に自信をつけることができました。初めての海外だったため、現地の人としっかりコミュニケーションが取れるのか、自分の英語が伝わるのかなど、不安なことがたくさんあり、正直とても怖かったです。

しかし、実際に行ってみると、想像していたこととは違い、ホストファミリーや英語の先生など、みんなが優しく接してくれました。オーストラリアに着いたその日から、日本ではなかなか見られないカジノの建物や、オーストラリアの歴史を知ることができる美術館などを訪れ、多くの新しい発見があり、毎日がとても楽しかったです。

ホストファミリーとの会話を通して、北海道の先住民族であるアイヌの話や、オーストラリアの先住民であるアボリジニの話をすることもできました。「いつか北海道に行ってみよう」とホストマザーが言ってくれたことがとても嬉しく、北海道の魅力を伝えることができ良かった、頑張ってた話した甲斐があったと感じました。

ネイティブスピーカーに自分の英語が伝わる楽しさを実際に感じる事ができ、とても良い経験になりました。

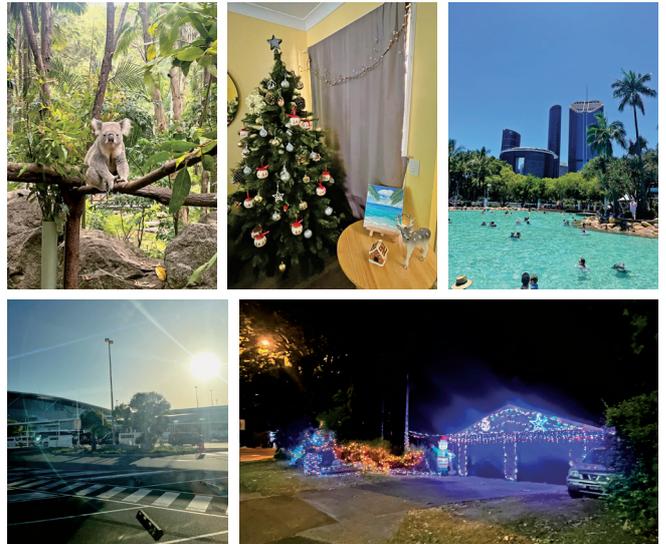
『不安から自信へ 私の忘れられない短期留学研修』

2年B組 鈴平 小陽

英語が苦手だった私は、ホストファミリーと上手く交流できるか不安でいっぱいでした。しかし、ホストファミリーは私に分かりやすい英語で話しかけ、身振りや手振りを交えて一生懸命伝えようとしてくれました。その温かさに触れ、言葉が完璧でなくても心は通じ合うのだと気づきました。

ホームステイでは美味しい食事を囲みながら笑い合い、英語レッスンやアクティビティでは現地の生徒と交流し、毎日が新しい発見の連続でした。中でも印象に残っているのは動物園での体験です。日本ではできないコアラを抱っこするという貴重な経験を通して、異文化の魅力を肌で感じました。

この留学で学んだのは、挑戦する勇気の大切さです。不安の先には必ず成長があり、一歩踏み出すことで世界が広がることを実感しました。これからも恐れずに挑戦し続け、自分を信じて前に進みたいです。



『三年間を振り返って』

文体部長 竹田 要

三年間の文体部での活動は自分自身にとっても貴重な経験でした。

学校祭は他学年の父母の方と模擬店のお手伝いができ、学生時代に戻ったように感じられ有意義な時間でした。

また部会長に選ばれた時は前回、前々回のように楽しく活動に協力してもらえなかった不安でしたが、部会の皆さんが積極的に協力してくださる方々で安心しました。そして毎年学校祭当日の参加人数が足りないことが課題でしたが、今年には部会関係なく吹奏楽部の保護者の方々が協力してくださり、本当に助かりました。

今年の活動を終わられたのは協力してくださった部会の父母の皆さんのおかげです。至らない所も多かったと思いますが、本当にありがとうございました。



令和七年度を振り返って

進路指導部長

鈴木 琢 二

卒業生の皆さん、そして保護者の皆様、ご卒業おめでとうございます。

今年度を振り返りますと、保護者の皆様をはじめ、地域の皆様にも多大なるお力添えをいただいた一年であったと深く実感しております。特に、町内企業合同説明会やインターンシップ、農林漁業出前講座、メディアカルガイダンスといった進路行事では、町内の企業や団体の皆様に例年にも増すご協力を賜りました。現場の生の声や業務に直接触れる機会を得たことで生徒の進路に対する意識や姿勢は大きく向上し、おかげさまで極めて有意義な教育活動となりました。

昨今の進学・就職環境においては、三年間で培った「生きる力」や「実体験」を問われる傾向が強まっております。卒業生が希望の進路を切り拓くことができたのも、入学から卒業まで、地域の皆様の温かいご支援が常に心強い支えとして寄り添ってくださったからこそと、深く感謝しております。来年度も学校運営協議会との連携を二層深め、変化し続ける試験制度や社会情勢に的確に対応し、生徒一人ひとりの目標を叶えるための指導に邁進する所存です。

二月現在の進路決定率は、進学六六%、就職一〇〇%、合計七九%と、

非常に高い成果を収めております。これは卒業生自身の弛まぬ努力はもちろんです、ご家庭での三年間にわたる物心両面のご支援があつての結果であり、改めて厚く御礼申し上げます。結びに、保護者の皆様への重ねての謝意を表しますとともに、卒業生の皆さんの輝かしい前途を心より祈念いたします。

北海道八雲高等学校進路決定状況

普通科

2026年2月現在

	大学		短大		専門学校		看護学校		就職		合計
	男子	女子	男子	女子	男子	女子	男子	女子	男子	女子	
希望者数	29		4		11		0		4		48
	15	14	0	4	4	7	0	0	3	1	48
決定者	11	8	0	4	4	7	0	0	3	1	38
決定率	66%		100%		100%		/		100%		79%

※公務員を含む

総合ビジネス科

	大学		短大		専門学校		看護学校		就職		合計
	男子	女子	男子	女子	男子	女子	男子	女子	男子	女子	
希望者数	0		0		2		0		1		3
	0	0	0	0	1	1	0	0	1	0	3
決定者	0	0	0	0	1	1	0	0	1	0	3
決定率	/		/		100%		/		100%		100%

※公務員を含む

3学年全体

	大学		短大		専門学校		看護学校		就職		合計
	男子	女子	男子	女子	男子	女子	男子	女子	男子	女子	
希望者数	29		4		13		0		5		51
	15	14	0	4	5	8	0	0	4	1	51
決定者	11	8	0	4	5	8	0	0	4	1	41
合計	19		4		13		0		5		41
決定率	66%		100%		100%		/		100%		80%

※公務員を含む



～学校生活の一コマ～

